二〇二六年度

人文社会学部
ヒューマンケア学部
健康メディカル学部
健康医療スポーツ学部

基礎能力検査

国語

試験開始の合図があるまでに、次の注意事項をよく読んでください。

一、試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。

二、解答用紙は、**マーク用解答用紙**と**記述用解答用紙**が両面に印刷されています。
マーク式の問題はマーク用解答用紙に左記の例のようにマークしてください。

（例）

解答										
1	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⓪
2	①	②	③	●	●	⑥	⑦	⑧	⑨	⓪

※同じ解答欄に複数のマークをすることもあります

三、記述式の問題は記述用解答用紙に記入してください。

四、机の上には、受験票・鉛筆・シャープペンシル・消しゴム・鉛筆削り（電動式は除く）・時計（時計機能だけのもの）・眼鏡以外のものは置かないでください。

五、問題・解答用紙の両方に必ず受験番号・氏名を記入してください。また、受験番号をマークしてください。提出の前には記入漏れがないか再度確認してください。

六、問題は3問全問解答必須です。

七、試験中に問題冊子の印刷不鮮明・ページの落丁・乱丁に気付いた場合、また問題の内容について質問などのある場合には、手を挙げて監督者に知らせてください。

八、問題冊子の余白等は適宜利用して構いません。

九、配布された問題・解答用紙は試験終了後回収しますので、持ち帰らないでください。

◇**携帯電話は、電源を切ったうえで鞄の中にしまってください。**

志望学科・コースの上枠に○をつけてください（第一志望のみ）

受験番号					

氏名	志望学科・コース
	人文社会学部：小学校・特別支援コース／保育・幼稚園コース／福祉コース／メディア文化コース／グローバルコミュニケーションコース／経営コース／トレーナー・スポーツ経営コース／観光経営学科
	ヒューマンケア学部：トレーナー・鍼灸コース／トレーナー・柔道整復コース／看護学科
	健康メディカル学部：健康栄養学科／心理学科／言語聴覚学科／作業療法学科／理学療法学科／救急救命士コース／臨床工学コース／スポーツサイエンスコース
	健康医療スポーツ学部：トレーナー・柔道整復コース／作業療法コース／理学療法コース／救急救命士コース／トレーナー・スポーツコース／アスリートコース／動物医療コース／看護学科

【問題二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、①〜⑤は、段落番号である。

まずは、これまでと同じままの自分に新しい知識やスキルが付け加わる、という勉強のイメージを捨ててください。Ⅰ<u>むしろ勉強とは、これまでの自分の破壊である。そうネガティブに捉えたほうが、むしろ生産的だと思うのです。</u>

多くの人は、勉強の「破壊性」に向き合っていないのではないか？

勉強とは、自己破壊である。

では、何のために勉強をするのか？

何のために、自己破壊としての勉強などという恐ろしげなことをするのか？

それは、「自由になる」ためです。

どういう自由か？これまでの「ノリ」から自由になるのです。

① 私たちは、基本的に、周りのノリに合わせて生きている。会社や学校のノリ、地元の友人のノリ、家族のノリ……そうした「環境」のノリにチューニングし、そこで「浮かない」ようにしている。日本社会は「同調圧力」が強いとよく言われますね。「みんなと同じようにしなさい」——それは、［ア］「ノリが悪いこと」の排除です。「出る杭(くい)は打たれる」のです。

② しかし、勉強は、深くやるならば、これまでのノリから外れる方向へ行くことになる。

③ ただの勉強ではありません。深い勉強なんです。それを本書では、「ラディカル・ラーニング」と呼ぶことにしたい。ラディカルというのは「根本的」ということ。自分の根っこのところに作用する勉強、それを、僕にできる限りで原理的に考えてみたいのです。

④ 私たちは、同調圧力によって、できることの範囲を狭められていた。不自由だった。その限界を破って、人生の新しい「可能性」を開くために、深く勉強するのです。

⑤ けれども、後ろ髪を引かれるでしょう——私たちは、なじみの環境において、「その環境ならではのことをノってやれていた」からです。ところが、この勉強論は、あろうことか、それをできなくさせようとしている——勉強によってむしろ、能力の損失が起こる。

一般に、もの知りになると、大胆なことがやりにくくなる。

「昔はバカやったよなー」という遊びが、できなくなってしまう。かつては、仲間内の「ただのノリ」でバカをやるのは素朴に楽しかった。その後、成熟して、可能性をさまざまに考えられるようになると、「狭い世界にいたんだな……」と気づいてしまう。しかし、狭い世界だったからこそ、エネルギーを **a** <u>圧シュク</u>して爆発させるようなバカができたのかもしれない。

［イ］、Ⅱ<u>お笑いの技術を勉強して</u>ネタの自由度が広がると、十分おもしろかったはずのネタがありがちなパターンにすぎないとわかってしまい、笑えなくなる。

自己流で歌っていたときの荒削りだからこその迫力が、一念発起してまじめにⅢ<u>ボーカルレッスン</u>を受け始めたら、だんだん失われてしまった。

こんなふうに、**勉強は、むしろ損をすることだと思ってほしい。**

勉強とは、かつてのノっていた自分をわざと破壊する、自己破壊である。

言い換えれば、勉強とは、わざと「ノリが悪い」人になることである。

そんなことに踏み出したいと思ってもらえるでしょうか？

いまの生活でそれなりに楽しくやれている人は、ノリをわざわざ壊す勉強なんてまっぴらゴメンだ、と思うかもしれません。ならば、本書は不要なのだと思います。

本書は、無理に勉強を強いるものではありません。

人生においては、ときに、紆余曲折を経てたどりついたある局面が、「完成した」局面のようになることがある、と僕は思っています。そうなったら、微調整しながら、大きくは生き方を変えずに長くやっていきたい人もいるでしょう。

それに、不自由であることは必ずしも悪いことではない。むしろ、まさしく不自由が、縛りが、快楽の源泉になる。これは人間のすごいところです。嫌なことを最低限にでも楽しもうとしてしまう——これを、精神分析学では「マゾヒズム」と呼びます。

人間は、根本的にマゾなんです。

完全な自由はありえません。私たちはいつでも、周りから課される制約のなかで、不自由をマゾヒズム的に耐えながら＝楽しみながら、生きている。

不自由のなかで、なんとかサバイバルする。自分のこの人生は運命的なんだ、気合いでやるしかない、という **b** シン念が支えになるときもあるでしょう……それは、良い悪いの以前に、マゾヒズムであると言える。いわゆる「根性論」とは、強力なマゾヒズムにほかならない。

［ウ］、あるとき、「別の可能性」を考えたくなるかもしれません。考えざるをえなくさせる出来事が、何か起きるかもしれない。マゾヒズムにも限度があるでしょう。限度を超えたストレスを受け続けているなら、どこかへ避難すべきです。しかし繰り返しますが、完全な自由はありえません。だから、どれほど苦しくて、自由を求めて逃げ出しても、それは「［X］」への引っ越しをすることでしかありません。

私たちは、あるマゾヒズムから、別のマゾヒズムへと渡り歩く——。

ともかく、この勉強論は、現時点で生活を変える可能性が気になっている人に向けられています。それは、何かモヤモヤした願望だったり、あるいは、不満や疎外感のようなネガティブな形のこともあるでしょう。

（千葉雅也『勉強の哲学』より）

問一　傍線部 **a**・**b** の**カタカナ**部分と同じ漢字を含む熟語を、次の中から一つずつ選びなさい。解答は**a**・**b**の順にマーク用解答用紙 [1]・[2] にマークしなさい。

a　①　宿題　②　粛清　③　祝日　④　縮図　⑤　淑女

b　①　心境　②　真偽　③　信頼　④　伸長　⑤　新鮮

問二　空欄 [ア]～[ウ] に入る適切な語を、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。その際、同じ語を繰り返し選ばないこと。解答は、**ア**～**ウ**の順にマーク用解答用紙の [3]～[5] にマークしなさい。

①　しかし　②　なぜなら　③　したがって　④　ところで　⑤　あるいは
⑥　つまり　⑦　そこで

問三　段落 [1]・[2]・[3]・[4]・[5] のつながりとして適切なものを、次の中から一つ選びなさい。解答はマーク用解答用紙の [6] にマークしなさい。

①　[1] 結論　→　[2][3] 理由　→　[4][5] 具体例
②　[1] 背景　→　[2][3] 定義と主張　→　[4][5] 目的と代償
③　[1] 定義　→　[2][3] 結論　→　[4][5] 具体例
④　[1] 反論　→　[2][3] 再反論　→　[4][5] 結論
⑤　[1] 背景　→　[2][3] 定義と主張　→　[4][5] 反論

問四　傍線部 Ⅱ「お笑いの技術」と Ⅲ「ボーカルレッスン」は、筆者の主張との関係でどのような役割を持つか。最も適切なものを次の中から選びなさい。解答はマーク用解答用紙の [7] にマークしなさい。

①　勉強によって表現の自由度が高まることを示す具体例
②　勉強が「ノリ」からの自由をもたらす利点を直感的に示す具体例
③　勉強で得た知識やスキルによって、コミュニケーション能力が向上することを示す具体例
④　勉強によってパターン認識が変わり、かえって以前の大胆さや迫力を失う側面を示す具体例
⑤　勉強の価値は娯楽の分野に限定されることを示す具体例

問五　空欄「X」に入る表現として最も適切なものを、次の中から選びなさい。解答はマーク用解答用紙の 8 にマークしなさい。

① 完全な自由という理想に到達するための環境
② 現状のノリに合わせ続けられる環境
③ 耐えられる範囲で不自由であるような別の環境
④ 限度を超えたストレスを受ける環境
⑤ 人生が「完成した」局面にあると思えるような環境

問六　本文の内容に合致するものを、次の中から一つ選びなさい。解答はマーク用解答用紙の 9 にマークしなさい。

① 勉強の最終的な価値は社会的評価の向上にある。
② 周囲に同調する力を磨くことが深い勉強の到達点である。
③ 「ラディカル・ラーニング」とは、これまでの自分を変えずに新しい知識やスキルを加えることである。
④ 深く勉強することによってはじめて、完全に自由な世界で生きることができる。
⑤ 人間にはマゾヒズム的な傾向があり、一定の不自由を快として引き受ける側面がある。

問七　傍線部Ⅰ「むしろ勉強とは、これまでの自分の破壊である。そうネガティブに捉えたほうが、むしろ生産的だと思うのです」とあるが、勉強の「破壊性」に向き合うことが生産的であると筆者が考えるのはなぜか。本文中の語句「ノリ」と「同調圧力」を用いて四十五字以内（句読点、記号等も字数に含む）で説明しなさい。解答は記述用解答用紙に書きなさい。

【問題二】　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

　世界は、「発見」されつつあった。コロンブスがパロスの港から大西洋に船出するかなり前から、大航海時代の到来は［ア］的なものとなっていた。最初に、この不可逆的なプロセスに踏み出したのは、ポルトガルの航海王子エンリケである。一四一九年、彼はポルトガル南西のサグレスに航海のための研究所を置き、アフリカ西岸への一連の探検に着手する。エンリケの活動が、おそらくはコロンブスの冒険的な航海以上に重要なのは、その方法のＩ組織性のためである。彼は、未知の世界を夢見て命がけの冒険に乗り出したのではない。ヨーロッパの認識する世界の地平線を、見事に組織されたプロジェクトによって拡張したのだ。そのためにまず、外洋を高速で航行できる三本マストの軽快帆船が開発され、羅針盤をはじめとする航海用具の実用化が進められた。また、探検を支援する体制として、サグレスの研究所には地図製作や天文学の［イ］的な研究部門が設置され、新たな発見は地図のなかに精密に記録されていった。さらに、船団が到達した先々には、航路を確実なものとするためにポルトガルの要塞が築かれていった。こうして一四三四年、それまで航海可能な限界と思われていたボハドル岬が突破されたのを契機に、四五年には大西洋上に浮かぶカボ・ヴェルジまで、五七年には北緯一〇度までと航路をのばし、王子の死後も ａ ケイ承されていったこの組織的活動により、ついに八八年、バルトロメオ・ディアスが喜望峰を発見、一〇年後には、バスコ・ダ・ガマがインド航路を発見するのである。

　イマニュエル・ウォーラーステインは、近代世界システム成立に至る過程の［ウ］的な第一歩が、ほかならぬポルトガルによって踏み出されたことの理由として、大西洋に面した地理的条件、遠距離貿易での経験、ジェノヴァ人からの投資が得られやすかったことの三点に加え、一五世紀のヨーロッパではポルトガルが唯一内乱を経験せず、国家機構の強大化を押し進められたことを挙げている。このような条件に恵まれた国家にとって、探検は大きな利益をもたらす事業であった。だから、同様の条件を備えた国が現れるなら、そこでも同じように探検が利益を生む事業として追求される可能性があった。その意味では、やがてスペインに主導され、オランダ、イギリスへと受け継がれ、拡張されていくこの「発見」のプロセスは、［Ｘ］巨大な認識と実践の運動であったということができる。むろん、そうしたプロセスのなかで、一四九二年のコロンブスによる「新大陸発見」が、最もドラマティックで決定的な瞬間であったことはいうまでもない。以後、コロンブスは計四回の航海を行い、ディアスやガマによる発見があり、また九九年にはアメリゴ・ヴェスプッチの南アメリカ大陸発見、一五一三年にはバルボアの太平洋発見、二二年にはマジェランによる世界一周が行われていく。エンリケによってはじめられた認識と実践のプロジェクトは、一四九〇年頃から一五二〇年頃までのわずか三〇年余りで、われわれの世界の相貌をまったく変容させてしまったのである。

　このようにしてヨーロッパ人たちに新しく「発見」されていった世界は、キリスト教の優越性のあかしとして、またヨーロッパの富のための搾取の対象として征服され、植民地化されていかなければならなかった。一方で、ポルトガル人たちの活躍の舞台となったインド洋では、一五〇九年、アルブケルケがインド総督に就任すると、主要交易拠点の植民地化が強力に押し進められていくこととなる。翌一〇年、彼はインド洋最大の交易拠点ゴアを占領、一一年にはマラッカも支配下におさめていく。これらの地にいたイスラム教徒は残らず殺され、代わって頑丈な石に囲まれたポルトガル人居留地が建設されていった。他方、スペインが ｂ ハ権を伸ばすアメリカ大陸では、想像を絶する規模の殺戮（りく）と文明の殲（せん）滅が行われていた。コルテスが巧妙な情報操作と部族対立の利用により、わずか数百名の兵士でアステカ帝国の首都メキシコを制圧してしまうのは一五二一年のことである。つづいて三三年、今度はピサロが、やはりわずかな兵士でインカ帝国の首都クスコを制圧する。そして、この二つの「征服」を頂点として、

広大なアメリカ大陸はヨーロッパからの侵入者によって次々と蹂躙(じゅうりん)され、その自然と社会の ｃ 様ソウを一変させてしまうのだ。一般に、一六世紀初頭の世界の総人口四億のうち、約八〇〇〇万人がアメリカ大陸の住人であったといわれている。そのうち、一六世紀半ばまで生き残ったのは約一〇〇〇万人である。全住民のほぼ九割が、一六世紀の数十年間で殺され、疫病で倒れ、餓死していった。たしかに、その最大の要因は、ヨーロッパから持ち込まれた天然痘や麻疹(しん)などの疫病に、この大陸の住民たちがまったく免疫をもたなかったことによるのだが、それとてスペイン人が征服の過程で彼らを虐待し、その生きる気力を奪っていったことと無関係ではなかろう。

われわれは、近代の幕開けが、この史上空前の大殺戮とともにはじまったことを決して忘れてはならない。しかしながら、ここで注目したいのは、新たに「発見」され、征服されていった世界が可能にした物と情報の地球規模の流通である。たとえば、アメリカ大陸からヨーロッパに流入していったもののなかで、経済的に最も重要なのが金と銀であったことはいうまでもないとしても、同時に、トウモロコシやジャガイモ、トマト、トウガラシなどの無数の植物が「新大陸」から「旧大陸」に渡り、ヨーロッパ人の食生活を変えていった。アジアやアフリカからも、新種の動植物が大量にヨーロッパにもたらされつつあった。そして人間も、そうして「発見」された「自然界の珍奇な物」の一部をなしていったのだ。実際、すでにコロンブスは、本国の人々に自分が「インド」を発見したことを証明するために、樹木や鳥類、動物類とともに「半ダース」のインディオを「標本」として連れ帰っている。コルテスもまた、メキシコ征服後、多数の鳥類や動植物類と一緒に、軽業師や身体の不自由なインディオを連れ帰り、スペイン宮廷やローマ教皇庁で「見本市」を開いている。植物と動物、そして人間までもが、「発見された自然」に属する「物」の一部として、ヨーロッパ人の前に展示されていったのである。しかも、このような多様な「自然」のイメージは、木版画や航海記を通して広く知られるものとなっていた。

大航海時代に出現した「世界の発見」とは、けっしてたんなる地理上の大陸や航路の発見ではない。それはおそらく、あるひとつの Ⅱ まなざしの発見であった。このまなざしは、「発見」された世界に客体としての「自然」の地位を強制し、これを記録し、分類し、配置していく。ツヴェタン・トドロフは、一四九二年、「グラナダでの最後の戦いでモール人を撃破し、ユダヤ人を強制的に領土から追放することによって、内なる『他者』を切りすてたスペインは、後にラテン・アメリカとなる外なる『他者』を発見する」のだと書いている。トドロフによれば、この、一方では自己の内部の異質性を排除し、他方ではまなざされる客体としての異質性を導入していく活動は、同じ運動の表裏であった。つまり、Ⅲ このような二重の操作によって、自己は純粋にまなざす主体として、まなざされる他者を疎外し／他者から疎外され、この間隙に世界を規律・訓練する透明で抽象的な視界の拡がりが構成されていくのである。しかも、こうした視界の構成は、ポルトガルやスペインのハ権から、やがて一八世紀のオリエンタリズムが、あるいは本書が扱う博覧会の歴史が示すように、ヨーロッパによる近代世界システムの編成という政治経済構造レベルの変動と深く結びついたものであった。近代とは、まさにそのような政治、経済、文化の諸次元が複雑に絡まりあった世界の「発見＝再編」のプロセスにほかならなかったのだ。

（吉見俊哉『博覧会の政治学』より）

問一　傍線部 a ～ c のカタカナ部分と同じ漢字を含む熟語を、次の中から一つずつ選びなさい。解答はa～cの順にマーク用解答用紙 10 ～ 12 にマークしなさい。

a　①　敬意　②　経営　③　警戒　④　形骸　⑤　継続

b　①　破壊　②　派遣　③　覇気　④　波及　⑤　把握

c　①　総会　②　掃除　③　想像　④　相談　⑤　送信

問二　空欄 ア ～ ウ に入る適切な語を、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。その際、同じ語を繰り返し選ばないこと。解答は**ア～ウ**の順にマーク用解答用紙の 13 ～ 15 にマークしなさい。

①　必然　②　象徴　③　決定　④　専門　⑤　偶然　⑥　形式

問三　傍線部 Ⅰ「組織性」について、筆者はどのように説明しているか。最も適切なものを次の中から選びなさい。解答はマーク用解答用紙の 16 にマークしなさい。

①　未知の世界を夢見て命がけの冒険に出たこと
②　地理的知識を増やし、ヨーロッパの認識の地平を押し広げたこと
③　航海具の改良、地図・天文の研究、要塞の建設を連動させた計画的体制のこと
④　新航路の発見により莫大な富をもたらしたこと
⑤　コロンブス以前から西アフリカ沿岸を探検したこと

問四　空欄 X に入る表現として最も適切なものを、次の中から選びなさい。解答はマーク用解答用紙の 17 にマークしなさい。

①　中心点が移動しながら増殖していった
②　単一の中心から周縁へ一方向に拡散していった
③　中心が固定されたまま深度を増していった
④　周縁から中心へと収束していった
⑤　偶発的出来事の連鎖として断片的に起こっていった

問五　傍線部 Ⅱ「まなざし」とは、本文の文脈に即してどのような性質の視線を指すか。最も適切なものを次の中から選びなさい。解答はマーク用解答用紙の 18 にマークしなさい。

① 未知の対象を好奇心や冒険心に基づいて眺める個人的な視線
② 神の摂理の下で、世界を創造物として畏敬する宗教的な視線
③ 異文化を対等な主体として理解し、相互承認を目指す視線
④ 世界を客体としてとらえ、記録・分類・配置によって規律化する視線
⑤ 被支配者が支配者に向ける抵抗の視線

問六　傍線部 Ⅲ「このような二重の操作」とは何を指すか。最も適切なものを次の中から選びなさい。解答はマーク用解答用紙の 19 にマークしなさい。

① 内部の「他者」を尊重し、外部の「他者」を排除すること
② 内部の「他者」を客体化し、外部の「他者」を主体として受け入れること
③ 内部の「他者」を排除し、外部の「他者」を客体として導入すること
④ 内外いずれの「他者」も客体として導入すること
⑤ 内外いずれの「他者」も等しく主体として承認すること

問七　本文の内容に合致するものを、次の中から一つ選びなさい。解答はマーク用解答用紙の 20 にマークしなさい。

① インディオは主権者として招かれ、交渉の主体として待遇された。
② 人間も動植物と同列に「発見された自然」の一部として扱われ、展示された。
③ コロンブスは帰路に何も連れ帰らず口頭報告のみを行った。
④ ヨーロッパ側は新世界の事物に無関心で記録もしなかった。
⑤ 「見本市」とは宗教行事のことで、自然物は対象外とされた。

【問題三】 次の各問いに答えなさい。

問一 次の傍線部 **ア** ～ **オ** の**カタカナ**部分にあてはまる漢字を、後の〈**語群**〉から、それぞれ一つ選びなさい。解答は、**ア**～**オ**の順にマーク用解答用紙の 21 ～ 25 にマークしなさい。

ア 会議の**シンコウ**に合わせて、配布物を用意する。
イ 自治体は観光と産業の**シンコウ**策を打ち出した。
ウ 異なる宗教を**シンコウ**する自由は保障されている。
エ いわゆる**シンコウ**宗教の広がりが話題になった。
オ 隣国の領土への**シンコウ**が国際社会から非難された。

〈**語群**〉

① 新興　② 侵攻　③ 進行
④ 親交　⑤ 信仰　⑥ 振興

問二 次の **ア** ～ **オ** の意味を持つ四字熟語を、後の〈**語群**〉から、それぞれ一つ選びなさい。解答は、**ア**～**オ**の順にマーク用解答用紙の 26 ～ 30 にマークしなさい。

ア 表面上は従うふりをし、内心では反発していること。
イ 自分の考えを持たず、むやみに他人の意見に同調すること。
ウ 言葉を使わずに、気持ちや考えが通じ合うこと。
エ 自分の言動や主張が互いに食い違っていること。
オ その場にいる全員の同意により、異議なく可決されること。

〈**語群**〉

① 臨機応変　② 面従腹背　③ 満場一致
④ 自己矛盾　⑤ 付和雷同　⑥ 以心伝心